

ひろの町のきれいな水環境を守ろう

かじか通信

Vol. 87

2024 年 12 月 10 日発行 隔月発行

発行：福島工業高等専門学校

TEL 0246-46-0700

広野町役場建設課

TEL 0240-27-4161

NPO 法人 浅見川ゆめ会議

TEL 090-4479-7232



トピックス

広野町三河川 24 時間水質調査分析結果報告します。

2024 年 9 月 27 日に行われた広野町の浅見川・北迫川・折木川、三河川の 24 時間水質調査の結果がまとまりましたのでご報告します。

この調査にご参加いただいた広野町役場、福島工業高等専門学校、NPO 法人浅見川ゆめ会議の皆様、本当にお疲れさまでした。特に、高荒智子先生のご指導のもと、都市システム工学科の生徒たちが 24 時間かけて取り組んだ成果は、非常に貴重なものとなりました。

調査の結果は、水環境を守るための大切な資料です。自然の大切さ、ふるさとのかげがえのなさについて一緒に考える機会になればと思います。



浅見川下流



生徒たちが頑張ってます



北迫川下流



折木川下流



浅見川中流



広野町 2 4 時間調査結果報告

1. 調査情報

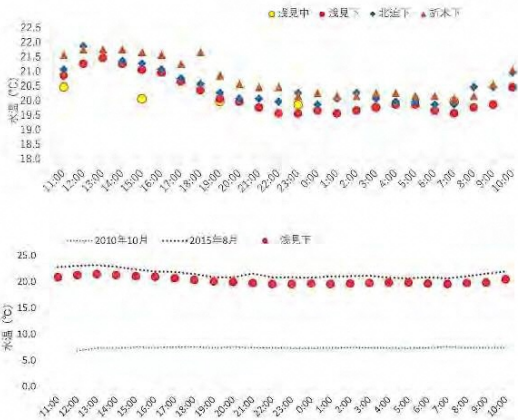
調査日：2024 年 9 月 27 日（金）11 時～28 日（土）10 時
調査ポイント：1 時間毎・・・浅見川下流、北迫川下流、折木川下流
4 時間毎・・・浅見川中流
測定項目：水温（現場・測定時）、pH、電気伝導率、浮遊物質量、BOD
COD（バックテスト）

2. 調査結果

＊調査結果に示す過去のデータは、浅見川中流（集会所前）の 2010 年 10 月および 2015 年 8 月の結果を示す。

（1）水温

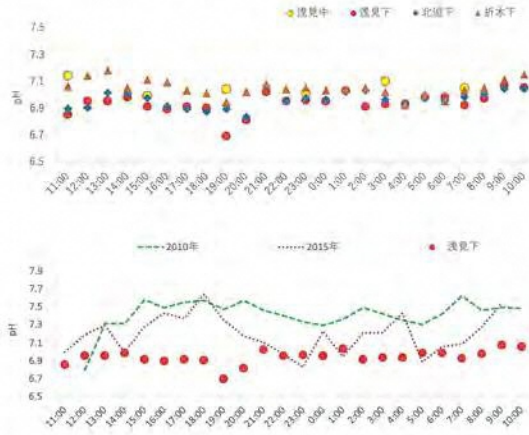
3 河川とも自然現象に由来した変動を示しているが、折木川が比較的高い値を示した。北迫川では一時的に上昇するポイント（12 時、23 時、2 時、8 時）がみられたが、工業地帯からの排水の影響の可能性とも考えられる。今年度は 9 月下旬測定であったのにもかかわらず、2015 年の 8 月と同程度の水温を示した。2010 年 10 月の浅見川中流の水温はすべて 10℃を下回っていたことも考慮すると、河川の水温は全体的に上昇していると推測される。



（2）pH

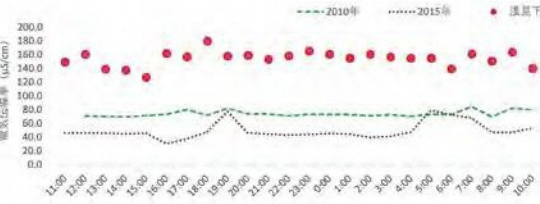
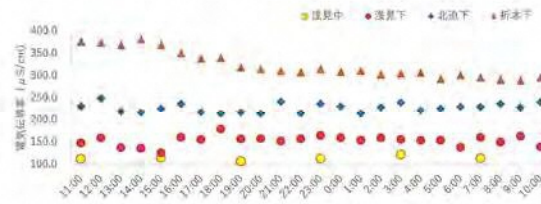
3 河川の比較では折木川および浅見中流が比較的高めの pH を推移した。

浅見川の 2010 年、2015 年、2024 年の平均 pH は、7.4、7.2、7.1 と徐々に低下する傾向にある。河川の pH は藻類などの光合成の活動で日中は上昇し、夜間に低下する傾向を示す場合があるが、今年度の調査では、全体的に pH の変動が小さい結果だった。



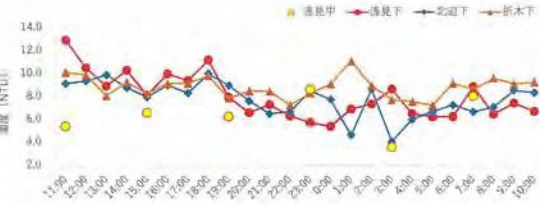
（2）電気伝導率

電気伝導率は、折木>北迫>浅見の順で高かった。ただし、変動幅は北迫川が 3 河川の中で最も小さい。折木川は、北迫川の 2.7 倍の変動幅が観察された。浅見川は朝・昼・夕の時間帯に若干の微増がみられ、人間生活の一時的な影響が観察された。また、浅見川の電気伝導率は、過去の測定値よりも全体的に 2 倍以上増加していた。浅見川の上流での工事により土砂が流入している状況を考慮すると、鉱物に由来するイオン濃度が上昇している可能性が示唆される。



（3）濁度

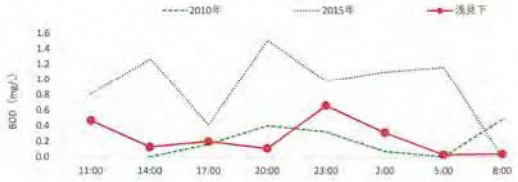
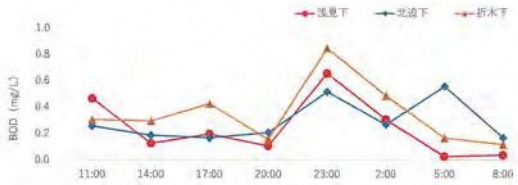
濁度は、3 河川とも同程度の値を示している。濁度の一時的な上昇は、採水時の土砂の巻き込みの可能性も考えられる。変動幅は浅見川が最も大きい結果を示した。上流からの土砂の流入があるとの情報もあることから、河床に堆積している土砂が舞上がりやすい状態になっているとも推測される。浅見川および北迫川は、日中から夜にかけて濁度が低下し、日が昇ると再び増加する傾向を示したのに対し、折木川は時間にともなう変化は小さかった。



（4）BOD

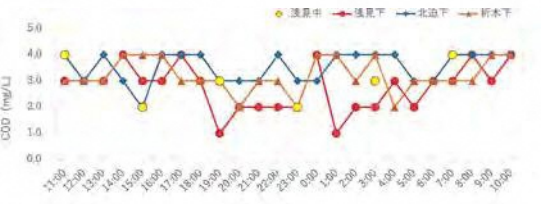
BOD の平均値は、折木>北迫>浅見の順で高い結果を示した。ただし、変動幅は北迫川が 3 河川の中で最も小さく、電気伝導率と同様の傾向だった。浅見川および折木川の変化は類似の結果を示したものの、人間活動の影響と思われるほどの BOD の変化は観察されなかった。折木川は pH や電気伝導率が他の 2 河川よりも高い結果を示しているが、生物分解性の有機物は特に高いというほどでもなかった。

浅見川の値を過去の測定結果と比較すると、有機物濃度は震災前のレベルに低下した。2015 年は作業員宿舎からの浄化槽処理水の流入が多かったが、現在は宿舎の数も減少したと考えられ、そのため河川の有機物濃度が従来の推移に回復したと思われる。



（5）COD

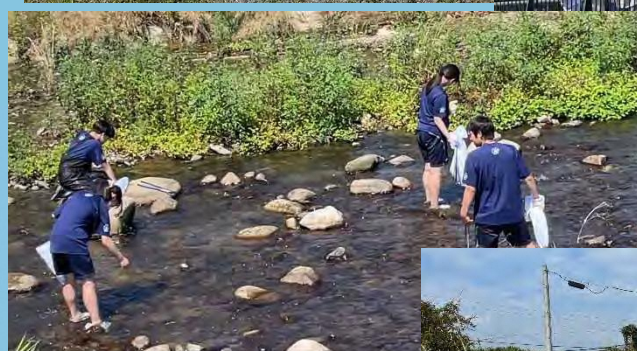
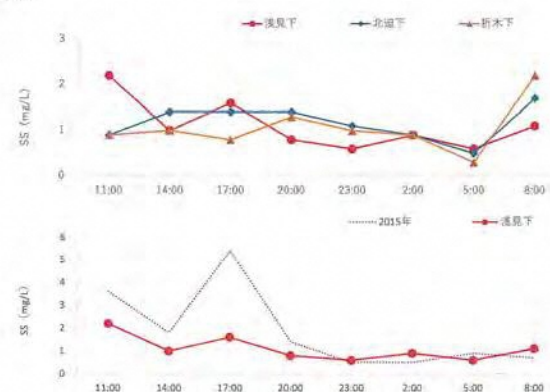
COD はバックテストによる測定であるため、時間変動は判定できないものの、3 河川とも 2～4mg/L 程度の値で推移した。



（6）浮遊物質量

SS は 3 河川ともほぼ同等の結果を示した。2015 年の浅見川中流の測定では、最大 5mg/L を超える結果が一時的に観察されたが、今年度の測定では最大 2.2mg/L だった。ただ、11 時、17 時に一時的に増加するという傾向は、今回も変わらなかった。浅見川の上流から流出した土砂の堆積は、今回の調査時でも目視で観察された。今回の調査時の天気は一時小雨が降る程度の天気であり、河川の SS は大きく変化しなかったが、強い降雨時には河床の堆積土砂が巻き上げられ、SS や濁度がこれまで以上に増加する可能性が考えられる。土砂の堆積は、付着藻類の減少、底生生物の棲息場所を奪うことで、河川生態

系に影響を与える。浅見川の土砂流出の影響は、水質だけでなく生物多様性の観点からも調査することが必要である。



1月～3月を除く、第一土曜日 AM9:00 より浅見川清掃活動を行っております。
多数の参加お待ちしております。

私たちがずっと安心
して住める環境を守
ってくださいね！

